

(令和6年9月10日 午後1時15分 開始)

○議員（蓑原 敏朗議員） さきに通告いたしました質問要旨通告に基づき、3点ほど質問させていただきます。

まずは、町長選挙お疲れさまでした。暑いさなか、また特に今年は一段と暑いようですが、大変だったのではと拝察いたします。先日は台風10号が襲来し、本町にも影響が少なからずあったのですが、台風は、発生して温度の高い海の上を進みながら、暑さをエネルギーにして勢力を蓄えて発達するのだそうですが、町長も暑いさなかの選挙戦の苛酷な暑さを町政推進のエネルギーに変えて、町民の福祉向上、町政振興に邁進されるものと期待しております。

町長は川南町を何とかしたいと、これだけは取り組みたいとの思いで立候補を、当選されたのだと思います。大変失礼な言い方ですが、町長になるのが目的ではなく、町長になってやり遂げたい、これだけはどうかしなければという課題があったのではないかと思います。町長になられて、ぜひこれだけはやりたい、早速やらなければならないという課題をお持ちでしたらお聞かせください。先ほど同僚議員が似たような質問をされましたが、町長のお答えは理念的な回答のような気がしました。具体的なことがありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

あとの質問は質問席でさせていただきます。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。さきの中村議員の質問にも重複すると思いますが、お許しいただきたいと思います。

様々な問題がありますが、私は町政を進めるためにどうしてもクリアしなければならないことを課題として伝えたいと思います。ここで、先ほどとはちょっと違った、私は学生時代、ラグビーを部活として頑張ってまいりました。その中で一番大事なもののというのが、レギュラーでない方も、それからマネジャー、いろんな方々が思いを一つにしないと結果は出ない、結果は現れない、そういうことを学ばせていただきました。

私は後援会活動から選挙戦まで、輝き、魅力あふれるまちづくりを掲げてまいりました。輝きとは、町民一人一人が自ら考え自主的に行動することで、自ら光り輝き、周りの方々も照らしていくこと、つまり積極的に行動することと考えています。そして町民の皆様の思いが一つになったときには、必ずすばらしい川南町を築いていけると信じています。町民の皆様と一緒に力を合わせ協力していくことが、私の目指す輝き、魅力あふれるまちづくり実現に大きな力になると思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 少し残念です。もうちょっと具体的な、例えば人口減少をどうしたいとか、後でお聞かせお願いしますけど基幹産業をどうにかしたいとか、そう

いうことをお答えに期待していたんですけど、人づくり運動というんですか、以前、黒木博宮崎県知事が人づくり運動というのをやったことがあります。そのような、いわゆる社会教育というんですか、そんなことをおっしゃっているような気がして、政治形態、経済形態でいえば下部構造のことじゃなくて、上部構造のことをおっしゃっているような気がするんですよ。確かに、おっしゃったことは間違っていらっしゃらないと思います。それぞれが考え、それぞれ行動することは大切なことです。そのためには、じゃあどうするんだというものはないんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 今の蓑原議員の質問に対しては、蓑原議員の質問の町政運営方針の中で4項目挙げられています。この中でお話しさせていただきたいと思います。以上です。

○議員（蓑原 敏朗君） 彫刻でいえば、きれいな完成したミロのビーナスみたいなものじゃなくてもいいから、何か粗削りでいいから町の政策の、宮崎町長の政策の柱みたいなのを期待していたんですけど。例えばですよ、本町について、何も問題意識はないのかな、一丸となっていないから川南町はうまくいっていないんだよと、川南町を一丸とならせるために、自分で考え、自ら積極的に行動する人間性、人間をつくっていくことが、宮崎町長の今から取り組むことだよということなんでしょう。

粗削りでもいいから、これだけはどうしてもやりたい、やり遂げたいというようなことは具体的なものは、まだ現段階ではないという理解でよろしいんでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 今の質問にお答えします。

具体的なものという御質問ですが、町長になって、各課のヒアリング、職員との庁議会等を開催いたしました。その中で一番出た、職員の心配していたことは、現町長、私は、東町長と同じ手法で行政を運営するんですかという質問がありました。

私は、今までは全てがトップダウン、庁議会も開かれますけど、ほとんど町長の思いが伝えられて終わるという状況でした。これは、私は先ほど言いました町民の方々、それから職員みんなが、一丸とならないと様々な問題をクリアすることはできないと考えています。私の町政運営の基本はですね、職員のボトムアップ、トップダウンではなくてボトムアップ、それぞれの職員の意見を賜りながら、しっかりとそれを施策に反映する、これが基本と考えております。

こういった中で具体的なものというのは、まだ、すいません、就任して、またヒアリングを行い、様々な各課の思いも職員の思いも賜りながら今日に至りましたので、具体的なものに対しては、できれば3月の議会で、皆様にお示ししたいと思っております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 町長は、東町長のときは職員と町長が一丸となっていなかったという印象をお持ちなのでしょうけど、それを今からやっていくということですけどその検証というんですかね、一丸となったよとか、一丸でやっているよというようなことは、どうやって検証されるおつもりなんでしょう。

○町長（宮崎 吉敏君） 具体的なことに関しては、その結果だと思っています。それから、私の今日述べさせていただきました思いというのは、皆さんの御意見を賜り、その中で判断していきたいと思っています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 私の質問とかみ合っていないような気もするんですけど、一丸となる体制をつくりたいという、宮崎町長お考えのようなんですけど、その達成度というんですか、今日言われて、あしたあさってになるもんじゃないと思うんですね。宮崎町長おっしゃったように、3月ぐらいまでにというような一定の時間、必要だと思うんですよね。だから、その中で町長自身が、簡単に言うとK P I、K G I、プラン・ドゥー・シー・チェックというんですか、その辺はどうやってやられるのかなということちょっとお聞きしたかったわけなんですけど。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えします。

思いの中というのは非常に難しい問題だと捉えています。これが果たして、先ほど具体的な事業ということに対しては3月にお示ししたいということですが、本当にみんなの心の中が一つになるというその判断については、もしかして、それは相当時間もかかることだと認識しています。しかし、その努力は、私が必ず努力して、皆さんの一丸となるような思いを、醸成していきたいと考えています。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） これ以上言っても、ちょっと無駄なのかなとも思いますけど、町長の思いは十分私には伝わっているんですよ。ただ、そのチェックはどうされるのかなというのは、そうだよねというふうにはちょっとなっていません。

ただ、これは老婆心かも分かりませんが、いろんなことを進められる上で、その一丸となられる政策を進められる上で、途中で、いや、間違ったなと、こっちのほう、右のほうがいいよなということはあるんじゃないかと思うんですね。そのためにP D C Aというんですか、その辺はやられることを、これは私自身の反省も含めてですけどね、何事もですけど、特に行政にいと一遍決めたことを変更するとかいうのは、失敗を認めるようで面白くないという、苦しいことなんですけど、その辺は勇気を持っていただきたいと思います。3月に新しい施策がたくさん出ることを、今回は取りあえず期待しておきます。

次に、基幹産業についてお尋ねいたします。

町政運営方針で、町の基幹産業は農業、漁業と発言されております。改めて、本町の基幹産業といったらどういったものだと認識されていらっしゃるでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

基幹産業は何だと認識しているかということですが、分かりました。改めまして基幹産業という言葉調べましたところ、要約して紹介しますが、このように書かれておりました。基幹産業とは、一国の経済の基礎をなす産業のことで、キーインダストリーと

も言う。鉄工などほかの産業の原材料や建設用の資料として広く使われる重要な物資を生産する産業。また、電力など、経済活動に不可欠なエネルギーを供給する産業が代表的な例であると表現されていました。

本町にお置き換えるならば一町の経済の基礎をなす産業のことであると認識しております。

以上です。

○議員(荻原 敏朗議員) 書いてあったんだから、多分そのとおりなのでしょうけど、もうちょっと付け加えるなら、町長は国のことで例えられましたけど、川南町に置き換えるならば、川南町全体の浮沈に関わる、浮き沈みに関わる、もうちょっと大きく言えば、文化的な活動にも影響を与えかねないような、町長、キーインダストリーとおっしゃいましたけど、もうちょっとプラットフォーム的なインダストリーのこともいうんだらうと思うんですよね。さきほど同僚議員の質問の中で、途中で商店街のことを尋ねられて、議長が質問通告に入っていないからと止められましたけど、あの発言を聞いていたら、あれ、町長は町政運営方針では農業、漁業とおっしゃったけど、商店街がキーインダストリーと思っていらっしゃるのかなと思ったんですけど、町政運営の方針に述べていらっしゃるように、町長の認識は農業、漁業ということで間違いございませんか。

○町長(宮崎 吉敏君) はい、私の認識は農林水産業だと認識しております。

以上です。

○議員(荻原 敏朗議員) 従来の町長はずっとそんな、いわゆる第1次産業、特に農業のことを基幹産業とおっしゃってこられて、宮崎町長もそんな認識だということですけど。

それでは、現在の農業——漁業も含めて結構ですけど——農業、漁業の現況はどうお考えですか。

○町長(宮崎 吉敏君) 私が選挙期間中、農林水産業の方々と相当お話しさせていただきました。一番感じたのは私、商売でしたから、農業の難しさ、このことが認識が足りなかったと非常に反省しております。

今現在、農業の中でも特に畜産業、牛、豚、鶏とありますが、その中でも牛、繁殖・肥育に関しては、想像を絶する非常に厳しい状況だと認識しました。何とか肥育農家、繁殖農家に対する支援策が何かないかというようなことも考えさせていただきました。基本的には、国、県、また川南町独自の支援、これを合わせる事が大事じゃないかなと思っています。

先ほど、県知事の発表で、畜産関係に1000億予算をつけたという話がありましたけども、川南町、特に今言った農業、漁業もそうなんですけど、非常に物価が高騰、飼料、それから漁業に関しては燃料が非常に高騰しているということで、自分たちの事業を圧迫している。これについては、早急に手だてを取らなくちゃいけない。ただ、実際に川

南町も、そういう支援は行われています、そう認識しております。

以上です。

○議員（養原 敏朗議員） 農業、特に畜産、和牛のことをおっしゃったんでしょうけど、繁殖・肥育、厳しいという御認識ですけど、少し違うなど。農業、園芸部門も非常に苦労しております。ひょっとすると和牛繁殖・肥育よりか、ある意味苦しいかもしれません。現に私の知り合いでも、子供さんは一緒にやっていたけど辞めて勤めに出たとか、ここ数か月のうちにそういう方もいらっしゃいます。もちろん畜産の方も苦しいんでしょうけど。

それと、先ほど1000億とおっしゃいましたけど、大体宮崎県に国の予算が来るのは100分の1と言われております。川南に直すと、その100分の1と、大ざっぱに言ってですよ。だから、農家それぞれに来たときは、ほんの、言葉悪いけどスズメの涙というようなこともありますので、町長ちょっとおっしゃいましたけど町独自とか、そういうことも本当、可能であれば、ぜひ畜産だけでなく、ほかの農業についても考えていただきたいと思います。

町長も基幹産業とはというところで申されましたけど、ほかの産業の浮き沈みにも関わる、商店街がなくなると川南がなくなるような、御発言もありましたけど、商店街が発展するためには、やっぱりその前に農業、漁業が発展しないと消費者もいないというような町になってしまうと思うんですよね。だから、農業、漁業が発展したら、自然に商店街も発展すると、他産業にも影響があるというのが、町長のおっしゃるキーインダストリーだと思うんですよね。農業については、お考えを基幹産業という御認識であるわけですからね、ぜひ力を注いでいただきたいと思います。

ただ、その場合は、やはり今おっしゃったように、もう今やらなければいけないことと、中長期的に、午前中出ましたですよ、用水路の水道みたいな管理をすとか、そういうのは短期的には難しいと思うんですよね、中長期的にやらないといけないだろうと思うんです。その辺はよく考えていただきたいと思います。

一つ、例として挙げさせていただきますけど、急に今テレビで米が不足とか言っていますよね。これはある意味、今までの農政の失敗もあると思うんですよね。これは宮崎町長のせいでは全くないんですよ。作らなければ金をやるとかいうような政策、ある意味、駄目にする政策だったような気もするわけです。米不足の中で、今年、いい米は高いようです。ただ、カメムシが発生しているようで、川南の僕の知り合いの農家は全部3等じゃった言うて嘆いておりました。原因を聞いたらカメムシじゃと。そんなことは町として、本当すぐにでも、今年はまだ収穫期が終わったから取り組まなくちゃいけないことだろうと思うんですよ。

それと、ついですから、農業のことをもうちょっと言わさせていただきますけど、P L A T Z（ぷらっつ）ですよ、P L A T Z（ぷらっつ）あたりをもうちょっと有効に活用したらいかがでしょうか。都農の道の駅なんかは、今だったらブドウとかがあふれ

んばかりにいっぱいあるかと思います。川南のP L A T Z（ぷらっつ）は農産物、水産物のP Rについてはあまり活用されていないんじゃないかなという気がするんですよ。いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 今、蓑原議員が質問されましたことについては、私自身、農協、尾鈴地区本部の役員、また漁業については川南町漁協の役員と、しっかりと対話を重ねながら手を打っていきたいと思っています。

また、今、P L A T Z（ぷらっつ）の御質問がありました。P L A T Z（ぷらっつ）です、様々な期間、季節に応じて品物を販売する、その取組はということが質問だったと思うんですけど、このことについては、しっかりと現場で対応はなされています。ただ、大きなイベントとなると、駐車場の問題があって、近隣住民の方々からクレームが入ってできないというのが現状です。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） P L A T Z（ぷらっつ）については、また質問させていただきますけど、はい、そうですかというわけにはちょっといきません。

先ほど申しましたけど、農業は川南町の基幹産業という町長も認識ですから少しは安心しましたけど、この農業の問題というのは、川南だけの問題ではないというのは十分分かっておるわけですけど、人間で言えば、もうかなり危機的な、病気では、かなり重い状態ではないかと思うんですよ。一刻も早く手当てが必要だと思うんです。早急な対策ですね。

よく、後継者がいないという話が出ます。それは、もうからないからだろうと思うんです。理由は簡単だと思うんです。もうかれば、町長も選挙で回られて、ちょっと農業に認識が甘かったとおっしゃいますけど、そんなに、もうかりさえすれば悪い職業ではないと思うんです。もうかるという意味は再生産が可能で、生活をやっていける収入があるということだと思うんです。

町長も町の広報誌に書かれてありましたので御認識だと思いますけど、川南は豊かな自然というポテンシャルを上げていらっしゃるって、全くそのとおりだと思うんですよ。必然的に自然が豊かだということは、第1次産業への道を模索する、期待するということが必要だと思うわけです。ぜひ、町長、第1次産業の振興に、より以上、力を注いでいただきたいと思います。何か御意見があれば。

○町長（宮崎 吉敏君） 先ほど言いました各団体、農協、漁協との対話を重視し、また、現場の抱えている問題等も受け入れながら、しっかりと対策を打っていきたいと思います。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 3点目の町政運営についてお尋ねいたします。幾つかありますが、今日は一部をお尋ねしてあとはまたの機会にさせていただきます。

まず、人口減少、高齢化対策として定住促進を町長掲げられています。何か具体的な

策がありましたらお示してください。また、働く環境は重要ということを書かれておりますが、意図されている具体的なことがありましたら併せてお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 荻原議員の質問にお答えいたします。

川南町が一番、今大きな問題として掲げている人口減、少子高齢化等については、定住促進対策として私が考えている必要なものについては、仕事、住居、福祉と考えています。

仕事については町内事業者様と協議し、町内の働く環境を整え、また誘致企業の推進も進めてまいります。

住居については町営住宅の見直し、整備の策定を進めてまいります。また、町有地の民間への貸出しなど、民間資本の活用も進めてまいります。

福祉については、本町の施策でも行われていますが、中でも出産と3歳児までの未就学児への支援が必要と考えていましたが、川南町も、ここに対してはしっかりと今、支援策が実行されております。ただ、国のほうも、少子高齢化支援対策として出産、それから3歳児までの皆保育、全員が保育を受けられる環境を整えようとされています。ですから、福祉に関しては、今後、国の動きも見つめながらしっかりと対策を講じていきたいと思っております。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 私も町長の意見の中で、働く場の確保というのは、本当、全くそのとおりだと思います。転出される方、何人か聞くと、食っていけんと、働く場所がないと。私も息子が3人おりますけど、2人ほどは帰ってきてもいいよと言っています。でも、働く場所がねえじゃないかということを言います。やはり働く場所、食っていけるだけの働く場所があればその可能性というのは高まるのかなと思います。働く場所をつくるということは、僕自身も町長、賛同します。ぜひお願いしておきます。

実は、何月だったですか、6月だったかな、議会で、転出される方へのアンケートをぜひお願いしたいということを申し上げたら、随分前に言ったんですけど、実際はあまりやられていなかったけど、また今度はやりますよということですから、それらの方のアンケートもぜひ参考にされて、転出理由の、ぜひ生かしていただけたらと思います。

2点目の町内産業推進、成長とも関連するわけですけど人口減少の理由は簡単です。自然動態、出生と死亡ですよね。社会動態、転出と転入。その差がマイナスになっているから人口が減っていくわけです。これはもう間違いないことだと思います。

ただ、その解決策は大変困難なわけで、多くの自治体が悩んでいるわけですけど。ぜひ町長、目を向けていただきたいのは、流入対策も大事だと、無駄だとは言いませんけど、流出対策ですよね、転出対策。自然動態はある意味、一定の年齢に達したら病気とかもあって亡くなられること、これはなかなか止めることは難しいと思いますが、転出対策は、町長のおっしゃったように仕事さえあれば、ひょっとしたら、ある程度は防げるのかなという気もしますので、ぜひ、定住促進には人口誘導、流入に目をあまり向

けないで、ぜひ流出対策に目を注がれるのをお願いしたいんですけども、いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 流出対策ということでお伺いしたと思います。まず高校、川南町で言えば、高校卒業時、大学に進むのか就職するのかという話になると思いますが、高校卒業して就職等については、しっかりと川南町も力を入れていかなくちゃいけないのかなと思っています。

その中には、先ほど言った誘致企業という問題があります。ただ、今現在、川南町の工業団地はもう空き土地がありません。私が考える誘致企業というのは、今現在、川南町にある空き家とか空き店舗とか、そういったところを活用したそういったサテライト等の事業が川南町に誘致できないかと。これは多くの投資を必要とはしませんので、ぜひこういったことには力を入れていきたい。また、現在産業推進課のほうも、そちらのほうに力を入れているところです。ぜひ、高校生の就職等については、しっかりと対策を打っていきたいと思います。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 国のほうが、テレビ等でごく最近騒がれましたけど、移住結婚に60万円をあげますよと。いろんな反対意見があって、そもそもそんなことは検討していないよと大臣言っていましたけど、検討していないはずはないんですよね、国のほうから発表したわけですから。その前に出た意見としては、移住させたら金をやるよじゃなくて、よい町、魅力のある地域づくり、まちづくりをしないと、そもそもそんな政策は駄目ですよという結論になったみたいですけど、魅力あるまちづくりをすれば、人はそう減らずにすむのかなという気もいたします。そのためにも町長がおっしゃった基幹産業、いろんなことに影響するであろう農業の振興、漁業の振興が必要だったと思うんですよね。ぜひ基幹産業の振興には力を注いでいただきたいと思います。

次に、地域内の資金循環を掲げておられて、今日も2度3度、同じ金を回すようなことをおっしゃいました。具体的な何か案がございましたらお聞かせください。

○町長（宮崎 吉敏君） 今の質問にお答えさせていただきます。

川南町には、皆様も御存じのように地域通貨トロンがあります。地域通貨トロンですね。これを活用することで町内資金循環と町外からの外貨を稼ぐことができます。今まで地域通貨プレミアムは、国、県の補助支援があったときに行われています。ただ、私としては、町独自の経済振興対策として取り組みたいと考えています。先ほど言った国、県の補助がなくても何とか。このことで地域通貨トロンは、町外の方も川南町で購入することに利用できます。町民だけではないんですよね。非常に私は好ましいツールだと思っています。

それから、商工会が年末に行っております歳末大売出し、それと商工会の商品券事業を行っています。このことについては、川南町からの資金が流出しない、それが一番の目的なんです。それぞれの事業者の方々にも負担をお願いして行っておりますが、ぜひ

このことについても町として支援を行っていきたいと考えております。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） お考えは分かりました。

町の予算執行についても、どちらかというところ、いわゆる委託とか町外発注が結構あると思うんですけど、その辺は町長どのようにお考えですか。

○町長（宮崎 吉敏君） 基本的な考えは、地域内の事業者を活用すること、そのことで資金がまた回っていく、もう一つは地元の事業者では賄えない分野、そういったところには、致し方ありませんが外部から導入しなくちゃいけないのかなという気がしております。

ただ、大きな事業になったときには、その事業を行う、仮に建設関係であったり道路であったりというのが、今まで町内の事業者が主体となっていて行っていますが、仮に特別な大きな事業というときには、逆にその方々と川南の事業者、J V（企業体）で受けることができないか。まだ今の段階では町内事業者で建築土木は回っていると思っております。そういったいろんな方法を考えながら、そこに地元事業者をマッチングさせることで地元事業者も回転するというような取組を考えていきたいと思っております。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 町長はJ Vのこと、ジョイントベンチャーのことをおっしゃいましたけど、確かにそういった手法も大きな工事等についてはあると思うんですね。それと、今発注している、今お願いしていることについても、ぜひいま一度チェックしていただいて、もし町内でできれば、大きな価格に差があったり、元からできないものについては、これは町長がおっしゃるように仕方がないと思うんですね。それ以外のものについては、ぜひ可能な限り町内業者に発注していただければと思うわけです。

それと委託ですけど、もし職員で可能なものならば、なるべく自前でやったほうが自分たちのものになるという気がするんですよ。外注すれば見栄えのいい上手な文章で、きれいなものが出来上がることは、ひょっとしたら間違いないのかもしれませんが。以前、モデル事業というのがあって、その前に農村総合整備計画というのが町がつくられなくっちゃいけなかったわけですけど、私、その事業に携わったときに、国のほうは外注は絶対アウトだよと。1市ですね、東北の市ですけど、これ、ちょっときれい過ぎますよねと言われて、どこにされたんですか、最初は自分たちでつくったと言っていました。でも、どこどこ、何とかというコンサルに頼みましたと言ったらそこはもう外されたですね。自分たちでつくらないと原因も現状も解決策も分からないじゃないかという厳しい当時の国土庁の御指摘でした。

可能な限り、自分でやる部分はやったほうが、将来的にも生きるんだと思うんですね。先ほどのチェックと同様に、可能なものはぜひ自分たちでやるようお願いしたいと思います。御意見があればお伺いします。

○町長（宮崎 吉敏君） 今おっしゃったお言葉の質問の中には、やはり町内で事業者

を育てるという、それも大事なことじゃないかなと思っています。それぞれの技術であつたり能力であつたりというのもありますけど、もう少しワンランク上がった、そういったところに対しては町も指導していくべきじゃないかなと思っていますので、そういった形で育てていきたいというふうに考えております。

以上です。

○議員（蓑原 敏朗議員） 一つは、外注ばかりでなく、職員で役場内で作ることも大事じゃないかと、いったことも付け加えておきます。もう時間があまりありませんので、ちょっと焦っていますけど。

今、宮崎町政はスタートしたばかりですので、期待感を持って、お手並み拝見ということにしておきたいところですが、輝きあふれるまちづくりのためにも、議員も一緒に推進をと最後に訴えられております。力を合わせてよりよいまちづくりを目指すことは、いささかも異を唱えることではありませんけどね。今日もひょっとしたら、あまり耳障りのいい質問ではないのかもしれませんが、ただ議会の役割として、執行部と議会が好きこのんでいがみ合う必要は私はないと思いますが、言葉尻を捉えるようで少し恐縮ですが、気になりましたので、ちょっとお尋ねしておきますが。今日最初に質問された議員の方も二元代表制のことをおっしゃいました。議会はあくまで町政の監視機関であり議決機関ですので、どうしても是々非々という立場を貫くこともありますので、そこはぜひ御理解いただきたいと思います。言い換えるなら、適切な距離感が必要ですよということを、理事会なんかは議決機関であり執行機関でしょうけど、議会は執行機関ではないから、その辺のところは御理解いただきたいと思います。

あまり思い出したいことではないんですけど、去年の4月の統一選挙のとき、私の近くの御夫人が、お店を営んでいらっしゃる方です。1枚のファクスを持って来られて、商工会関係の方から、蓑原は議員としては不適だから入れんようにと言われたよと、ファクスを1枚持ってこられました。でも、私はあなたを支持していますから、安心してくださいと言って来られたわけですけど。

町長、最後に、さあ、みんなで頑張りましょうとおっしゃいましたけど、商工会長としてはそういったお考えもあつたんでしょうけど、町長となられた今は異なる意見というんですか、耳障りな意見にも、ぜひ耳を傾ける度量が必要ではと思うわけです。いかがでしょうか。

○町長（宮崎 吉敏君） 蓑原議員の質問にお答えいたします。

私が所信表明の中で、議員の皆様も一緒にという言葉を発信させていただきました。この思いは、決して議員の皆様にも、行政が執行することを協力してくださいというものじゃありません。議会は議会として、しっかりと尊重してまいりたいと思っています。

ただ、私が一番選挙期間で訴えたのは、町民と一緒に、私たちだけでなく、みんなですばらしい町を築きましよう、その思いから、議員の皆様も町民であり、町民の代表であり、町民の負託を受けて活動されています。町民の皆様という思いから発言した

ことです。決して皆様にいろんな圧力とか、議会に対する協力とか、そういう思いではありません。しっかりとそこは、区別して進めてまいりますので、よろしくお願いします。

○議員（荻原 敏朗議員） よろしくとおっしゃいましたけど、こちらもよろしくお願いします。

それであれば、一丸となるのであればこそ、6月議会に社会教育団体、もしくはその類似団体と一緒に百条委員会の設置の請願を出されましたよね。僕は、請願そのものは誰でも権利があるわけですけど、ただ社会教育団体についてはその手法には疑いを持ちました。社会教育団体については、一定の歯止めが法律であるわけですよね。これが町長のおっしゃった一致団結、町の一丸に影響しないか、分断が、そういう意図がなかったんだろうと思いますけど、分断が進みやしないかと懸念しました。

人材育成の中でも、若者連絡協議会について意見を發表させるとおっしゃっていますが、そういう意図はないんでしょうけど、公共的団体であっても公の社会教育団体というのは公の支配には属しないとされております。協力とか、一緒に町長のおっしゃるように進めることはいいことですけど、履き違えると危険な場合もあるなという気がちょっとしたもんですからね。私の思い過ごしであれば幸いですけど、御意見があればお願いします。

○町長（宮崎 吉敏君） 今の御質問は、私たちが百条委員会に請願書を出したことにについてでよろしいですかね。（発言する者あり）はい、すいません。

私の考え、請願者の代表という立場で、皆さんの御意見を賜って請願書を出したという事実です。この中には、様々な方々、それぞれの立場もあるかもしれませんが、様々な団体の方々にお声をかけさせていただきました。このことについては、全てのお話をさせていただいた、ただ、立場上、無理ですという団体もありました。お願いしてもですね。ただ、それはもう強制というか、そういったことはいたしませんでした。

ただ、今、このことに、百条委員会ということに対しては、現在、川南町、また教育委員会が訴訟になっております。このことも含めて、やはり私自身、議会に与えられた調査する権利、これは何か、仮に私たち執行部が、何か不手際等があれば、しっかりと問いただしていただきたい。それが僕は議会のあるべき姿じゃないかなということで請願書を出させていただきました。ただその中に不適切とかという表現があるのであれば、そこはまた改めていきたいと思います。

ただ、その内容、全て百条委員会、議会でも、それからまた私たち請願出した後でも否決をされました。結果的には非常に、私は町民の皆さんのお声だと思って行動しましたので、そこについては結果的にはちょっと残念な思いもあります。ただ、先ほど指摘されたことについては、しっかりと検証していきたいと思います。（発言する者あり）先ほど言われましたけど、請願のことでいいんですよね。はい。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） ぜひ社会教育団体等の扱いについては、教育委員会のほうでよくお尋ねになられたら、また何かの機会にお尋ねになってください。

最後に、先ほど申し上げましたが、町をよくしたいという町長の意気込みには、支持もし、応援もしたいと考えています。

ただ、町政運営の方針にあります。折に触れ、いろんな方々の意見を聞くことは大切なことでしょうけど、今日の同僚議員の質問等に対して、検討しますということが、物事によってはそれは検討も必要でしょうけど、人口減少、少子高齢化の自治体にとっては、あまり時間がない物事もたくさんあります。その辺については、町長、いろんな情報を基に、即決、一定の時期がきたら決断しなくちゃいけないときもあるかと思うんですよね。それが町長の役割でもあるかと思うわけです。これが町政発展に必要なだと思うことがあれば、駄目な理由を考えるんじゃなくて、どうやったらそれができるんだろうかというふうなポジティブ思考といたら違うんでしょうかね。ぜひ前向きな姿勢で取り組んでいただきたいと思います。

御意見があればお伺いします。

○町長（宮崎 吉敏君） 様々な御意見を賜って、その中から前に進めていきたい、そのように考えております。

以上です。

○議員（荻原 敏朗議員） 先日、町長も来られていましたけど、8日の日に国光原中学校の運動会がありましたですね。開会式の後に、あそこは青団と赤団でしたけど、お互いに健闘をたたえ合う意味でエールを交換しておりました。私も、これから町長の頑張りに、町民の幸福度アップのために御活躍、御健闘をお祈りしてエールを送りたいと思いますので、ぜひ頑張ってください。

私の一般質問を終わります。

（ 午後2時14分 終了 ）